

越智勇一という人

「感染症の3要素」説を改め、戦後の日本獣医学界を立て直し、麻布大学を作り変えた人

趣意

麻布大学の卒業式では成績優秀者に「越智賞」が授与されます。これは名誉学長である越智勇一先生を記念したのですが、越智先生のことを知らない教員や学生も多くなくなってきました。越智先生は「自発性感染症」学説を提唱して獣医学に大きな学問的貢献をしたのみならず、戦後の日本の獣医学をレベルアップし、また麻布大学を発展させることにも大きな貢献をされました。今回の企画展示はこのような背景から越智先生の偉業を振り返ることにしましたが、そこにひとつの特徴を持たせることにしました。

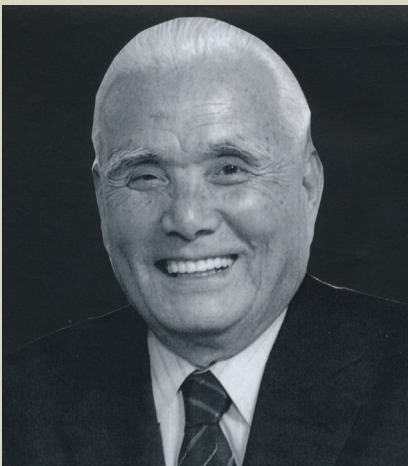
それは越智先生の輝かしい業績を紹介するというよりも、越智勇一という一人の人の魅力を描くということに力点を置いたということです。というのは、越智先生を調べる過程で、越智先生の考え方や行動力は時代を超え、今の私たちにも通じるものがたくさんあることがわかったからです。

越智先生を知らない人、あるいは「かつて越智先生という学長がおられたらしい」という程度しか知らない人は、ぜひその人柄に触れて、そこから何かを学び取って欲しいと思います。

一人の人を展示するというのは本館の企画展示では初めての試みで、その意味でユニークな展示となりました。

越智勇一先生は太平洋戦争中に釜山で家畜の感染症の研究を行い、自発性感染症説を提唱するという学問的偉業を成し遂げましたが、戦後は研究者としてではなく、日本の獣医学をレベルアップすることに生涯を捧げました。その行いの底辺にあるのは社会に貢献したいという思いでした。夢を持つロマンチストでありながら、しかもその夢を実現するリアリストでもありました。大らかで私心がなく、何事にも全力投球をする人でした。先生が大切にしたのは自由な精神であり、学問は自由でなければならぬと言いつつ続けました。越智先生の生き方には現代の我々が学ぶものがたくさんあるように思えます。

なお、展示内容の詳細は本館発行の冊子『越智勇一という人』をご覧ください。



ありし日の越智勇一先生

2018年9月4日(火)から12月28日(金)まで
麻布大学いのちの博物館

麻布大学



休館日、アクセス方法などの詳細は麻布大学いのちの博物館ホームページをごらんください。